

告ノ手續ハ分るヲ設ケタル「アロングスマン」  
毎ニ格法ノ如ク行フマシ

但シ教「アロングスマン」ニ区カシタル所ニ於  
テハ其本局ノ有ル區ノ裁判所ノ書記局ニノ

ト右ノ手續ツナハスバシ

第六十條 書記局ニ差出スヘキ証書及ヒ其他

ノ書類ノ抄出書若シ公ケル証書ナレハ公証  
人及シニ調印シマシ私ノ証書ナレハ合名會

社ハ其社算ニテ調印シ差金會社及ヒ無名會社  
ハ差出人又ハ支配人之ニ調印ス

第六十一條 左ノ件々ハ第五十五條及ヒ五十

六條ニ記シタル格法及ヒ罰法ニ後ヲバシ

○都ラノ記書及ヒ社則変更改正ニ有ラノ決  
議

○定期外會社ノ取續

○期限内ニ社ヲ解クヲ及ヒ拂立ノ方法

○社算ノ入替リ又ハ社算ノ退社及ヒ會社ノ  
名前変更

第十九條 三十七條 四十六條 四十七條 及ヒ

四十九條 以下ニ定メタル場合ニナシタル

決議モ亦ク第五十五條及ク五十六條ノ規  
則ニ從フハシ

第六十二條 第四十八條中ニ記シタル場合ノ  
會社ノ資本金増益又ハ減少ヲ確証シタル証  
書式ハ社算ノ退社ハ書託局ニ差出スル及ヒ  
公告スルトシテ格法ニ從フニ及ハス但シ第五  
十二條ノ場合ニ關係スル差出人又ハ支配人  
ハ否ラバ

第六十三條 若シ株式差金會社又ハ無名會社  
ナルヤハ何人タリトモ區裁判所及ヒ商法裁  
判所ニ差出シタル書類ヲ借覽スルコトヲ得ス  
ハ手数料ヲ出シテ其本書ヲ掌握シタル公証  
人又ハ書託局ヨリ其寫書又ハ抄出書ヲ請ヒ  
受ルコトヲ得ベシ

又何人タリトモ「フ」ランクヨリ多カラサレ  
金額ヲ會社ニ拂ヒ社則ノ檢査シタル寫書ヲ  
得シコトヲ要スルヲ得ベシ  
都テ書託局ニ差出シタル書類ハ顯示ノ方法  
ヲ用ヒテ會社ノ諸局中ニ貼附スルコトヲ得  
ベシ

第六十四條 無名會社又ハ株式差金會社ヨリ

出シタル出版ノ記書目録類フククニ告知アノニス公告及ヒテアリ其

他ノ書類中ニハ無名會社又ハ株式差金會社

ナル語字ノ前カ又ハ後チカニ社ノ稱号ニ人名

ヲ加ルヲ記シ且ツ資本金高ヲ記載スハシ○

若シ會社ニ於テ第四十八條ノ許シタル方法

ヲ用ユル片ハ資本金増減ノ語ヲ加ヘテ其様

様ヲ記著スバシ

前記シタル規則ニ違犯シタルハ五十「フ」ラ

ンクヨリ千「フ」ラシクマテノ罰金ニ處スバシ

第五卷

○「ト」シ「ン」會社

教人ニテ社ヲ組ミ各々若

金額ヲ得ル約定及ソレヲシテ請合會社

第六十六條 「ト」ン「ン」ノ組合及ヒ主命請合又

互相請合又ハ「ア」リ「ム」所有物請合ノタル

會社ヲ設ケタルニハ政府ノ允許及ヒ監督ヲ

請ケサルハカラス○其他ノ請合會社ハ政府

ノ允許ヲ得ストモ設立スル「フ」得ハシ此等

ノ會社ヲ組立得ハ、約條ハ行政規則ニ因テ定メラルベシ

第六十七條 前條ノ第二節ニ掲載シタル現今行ハル、處ノ請合會社ハ政府ノ先許ヲ得ハトモ社則變更ニ付前ニ定メタル格法及ヒ約條ニ後ニ行政ノ規則ニ因テ定ムル所ノ制度ヲ以テ組立ツヘシ

商業監察人ノ事

千八百八十八年三月十四日 決定

商業監察人ノ者者民法上禁錮ノ律例アリシ頃設クル所ノモノニシテ此律例廢絶ノ日共ニ欠及セリト云フ

第一條 商法第六百二十五條ニ後ニセリ區別

ニ於テ設クル所ノ民法上禁錮ノ言渡ノ執行ヲハキ任テ受タル商業監察人ハ通例十人ヲ以テ定算トスヘシ  
○商業監察人ハ終身其職ニアルモノニシテ國帝之ヲ授任スヘシ

第二條 府縣裁判所及ヒ商法裁判所ニテハ各

授任スハキ、商業監察人ノ定員ニ等シキ願望者ノ人負名簿ヲ差出スハシ

第三條 司法卿ハ監督一名ヲ命シ之ヲ商業監察局ニ差置クハシ

第四條 監督及ヒ商業監察人ハ其職務ニ後事スルノ以前府縣裁判所長ノ面前ニ於テ誓約ヲ為スハシ

第五條 監督及ヒ商業監察人並ニ六千「フラン」ノ保証金ヲ出シ之レヲ國庫辦理局ニ納ムハシ

第六條 商業監察局ハ巴里府ノ中央ニ設ケ采局ハ午前第九時ヨリ午後第三時迄及ヒ夕第六時ヨリ第九時ニ至ルハシ

商業監察人ハ各々当直日ヲ定メ交替シテ出局シ其職務ヲ行フハシ

第七條 商業監察人ハ民法上禁錮ノ言渡ヲ執行フハキ特任ヲ受ケタル者ニテ門監又ハ其他ノ官吏ツレテ之ツ代任ヒシムルヲ得ズ

商法裁判所ニ於テハ商法第三卷第四百五十五條ニ從ヒ商業監察人ツレテ分散人ノ義務

クナサシムハシ

第八條 商業監察人ハ及狀ヲ以テ其裁ヲ徽章  
トシ禁錮ノ言渡ヲ執行シトスルハ之ヲ其言  
渡ヲ受タル負債者ニ示スハシ

第九條 禁錮ニ處スル以前負債者ノ所持スル  
証券類ハ然テ監督ニ渡シ其受領ノ證ヲ取置  
クハシ

第十條 負債者其拘縛ヲ受ルハ禁錮ノ言渡ニ  
故障ヲ述ルカ又ハ之ヲ控訴スハシトノイリ  
陳言シ及ヒ其言渡ニ故障セントスル証券類

ヲ商業監察人ニ示スイリ得バシ

監督ハ裁判送達書ノ原書ヲ検査スハシ

第十一條 監督ハ禁錮ノ言渡ヲ執行フニ付更  
ニ故障ヲ生スルイリトキイリ見極メタル後ニ

アラサレハ証券類ノ監察人ニ戻スイリ得ス

且ツ証券類ニ其検査書ヲ添ヘテ與フベシ

禁錮ノ言渡ヲ執行フニ付故障ヲ生スルハ

裁判所ハ其趣ヲ執スハシ

第十二條 監督ハ府縣裁判所長ノ横線ヲ画シ  
及ヒ番号ヲ附シタルニ本ノ簿帳ヲ保存ス

ハシ

其第一ホハ負債ニ付テ、  
預次ニ記シ債主負債者ノ氏名身位及ヒ位所  
且ツ覆審院控訴聽並、  
兩縣裁判所ノ裁判言  
渡シテ載書スハシ

其第二ホハ負債者ヨリ  
シナシ得ハキ所ノ故障又ハ  
ハシ

第十三條 証書類ヲ渡シタ  
後ニ禁錮ノ言渡

ニ故障ヲ述得ハキ証書ヲ  
シテ更ニ指令ヲ受タ  
ラサルハシ

第十四條 禁錮ヲ言渡  
者若シ其金高ヲ拂ハ

シトノ命ヲ受タ  
シ但シ此ノ場合ニ於テ  
ニ又夕債主ハ渡ス  
テ之ヲ受取ラガ  
ハ後ノ二十四時以内ニ  
國債辨理局ハ納ム

(其趣意ハ如何) 其金高

第十五條 訴訟法第七百八十一條第五節ノ如ク執行ハントスル内其区ノ區裁判官負債者ノアル他人ノ家ニ於テ之ヲ捕縛シ得ヌカ又ハ捕縛スルヲ拒シ及ヒ商業監察人ヲ共ニ其其場ニ至ルテ其承諾セサハハ監察人ハ他ノ區ノ區裁判官ニ依頼スルシ

負債者ノ自己ノ住所ニ於テ之ヲ縛スルハ取テ區裁判官ノ許可ヲ得ルニ及バズ其立會ヲモ要スハカラサハハシ

第十六條 訴訟法第七百八十五條ニ依テ及ルル所ノ逮捕拒妨ノ場合ニ於テハ之ヲ捕縛スルヘントノ命ヲ受タル商業監察人ハ其拒妨ノ旨趣ト及ヒ模標トフ証シ且ツ門戸ハ勿論其他負債者ノ免レ得ハキ所ノ場所ニ於テ終ニ番人ヲ附ケ置キ共ニ依頼シ共ニハ將ニラモ此ノ依頼ヲ拒ム其助ケヲ得テ捕縛スルヘト得ハシ

第十七條 總シテタル負債者既ニ其捕縛ヲ拒ニシ証トナシハキ證書類ノ商業監察局ニ差出シ置キタルトテ陳スルニ監督ヨリ与ハ



タル領収ノ証書ト及ヒ監督ノ検査ヒシ所ノ  
裁判言渡書ノ原又トヲ以テ之ヲ解解セザル  
ルハ訴訟法第七百八十六條ニ定メタル場合  
ノ外ハ之ヲ捕縛スルコト得ベシ

第十八條 訴訟法第七百八十九條ノ如ク執行  
シトスルハ一月分負債者ノ養料ヲ官署ニ預  
クルハ商業監察人ヨリ之ヲ為スハシ但シ  
監察人ハ前金ニテ為スニ及ハス債主ヨリ其  
金高ノ受取ヲサレノ間ハ負債者ヲ捕縛スル  
ニ及バザルハシ

第十九條 第七百九十條ノ如ク執行シトセハ  
其再願ノ為メ法式ハ第七百八十三條四條及  
ヒ八十九條ニ於テ定ムル所ノ捕縛ノ法式ニ  
依ラハシ

然レモ商業監察人ハ証人ヲ容セス且ツ捕縛  
ノ調査ヲ以テセスニテ再願ノ調査ノ旨ヲ以  
テハシ  
捕縛ノ命ヲ受タル商業監察人ハ其為スルハ  
法式ニ依ラス捕縛シタルハ火ニ其働ナク  
加之其責ニ任スハシ故ニ働ナキ捕縛ノ為メ

生シタル費用ハ債主ニ之ヲ償フハシ

監督ハ其検査證書ノ失誤ニ依テ負債者ノ損

失ノ償ヒツ拂フズシ

第二十條 商業監察人ノ謝金ハ捕縛式ハ再願

シナレタルハ六十フランクノ給ハズシ

捕縛ノ命ヲ現行シ得ザルノ場合ニ於テハ其

段ヲ調書ニ認ムハシ謝金ハ只二十フランク

ヲ給スハハシ

分散人ノ住家ヲ審スルハ五フランクヲ給

ス

第二十一條 商業監察人ハ左ノ諸件ニ於テハ

又其謝金ヲ給スハシ

第一 債主ヨリ証書類ヲ預リタルタメニハ

三フランクヲ給ス

第二 債主或ハ負債者ノ差出セル所ノ証書

類ニ捺印ヲ為シタルタメニハ二十五フラン

クヲ給ス

第三 第十一條ノ揭示セル検査ノ為ニハ簿

帳記入及ニ検査料ヲ合ハテ二フランクヲ

給ス

第二十二條 第二十一條ニ定メタル商業監察人ニ給シタル謝金ノ三分ノ一ハ各一周毎ニ會中ニテ撰ミタル一人ノ手ニ渡シ貯蓄金庫ニ納メ置キ三ヶ月毎ニ會中一分賦スルニシ

第二十三條 第二十一條ニ定メタル謝金ハ全ク之ヲ金庫ニ納メ置キ商業監察局ノ雜費ニ給スベシ

第二十四條 方金庫ノ積金ヨリ三千フランクヲ監督ノ年給トシテ定メ置クニシ

第二十五條 前二條ニ於テ定メタル費用ヲ引去リ余金アルハ各三ヶ月毎ニ監督及ビ監察人ニテ等シク之ヲ分配スルニシ

第二十六條 第二十二條及ビ二十三條ニ於テ定ムル所ノ積金ハ其費用ノ拂ヒ方ニ就テノ故障ヲ述ルニテ得ヘシ但シ裁判所ニ於テ格別ニ命スル場合ノ外分配ノ後三ヶ月以内ヲ以テ期限トナスルニシ

第二十七條 損害ヲ受ケタル者商業監察人ノ一人ニ對シ其職務上ニ有テ出ントスルハ

即ち商業監察局に於ては、但し該局に於てハ、事實の検査に互當ナレハ、其損失の償還ハ、

監察人の職務ヲ誤タルヲ以テ許出ルハ、  
該局に於てハ、其訴訟調書に認メ、二十四時内  
ヲ以テ府縣裁判所、檢事の送達セラ決定ス  
ルヲハ、

檢事の決定に依テ府縣裁判所に於テ其監察  
人の職務ヲ一年間禁ムハ、

如何ナル裁判言渡ト並ニ檢事ヨリ之ヲ司法

卿ニ廻申スバシ

司法書文庫  
第 2410 號

2410

司法書

司法書

